

第16分科会 / 小グループ活動 「組織の自主運営こそ、経営者の学び」

報告者 高瀬喜照氏（㈱高瀬金型 代表取締役、愛知同友会副代表理事）

わずか数名の社員から、従業員を100名近く雇用する会社に発展させた高瀬社長も、当初は、社員を信頼できず、従業員を増やして、会社を大きくすることの必要性を感じなかった。しかし、同友会活動の様々な学びや気づきを通じて、人を信頼することを学び、実際に、会社の中で若い従業員が成長していく姿を見ることで、物づくりを次の世代に伝えていきたいという思いを強く持つようになり、社員も増え、会社も大きくなっていったという。

高瀬社長によれば、会社においても、同友会においても、社員の自主性、会員の自主性をもっとも大事であり、経営者のすべきことは、社員にやりがいを見つけさせるための経営であり、同友会では、会員に気づかせるための運営が重要であるという。そのためには、自主運営が絶対条件であり、人に対する思いやりは、自主性の中から生まれてくるもので、同友会の人間尊重の経営を自社の中で実践してこそ、同友会活動も広まっていくもので、同友会活動と企業経営の不離一体の取り組みが大事だと熱く語られた。